

# 米キリスト教徒は知るべし、実は、我々すべてが パレスチナ人だ

<http://stateofthenation.co/?p=193199#more-193199>

SOTN

October 29, 2023

あなた方アメリカのキリスト教徒は、知らないか、そんなことを考えも信じもしないかもしれないが、厳しい真実を言えば——「我々すべてがパレスチナ人なのだ」

今そのことを、ゆっくりとしっかりと、考えてみてほしい——残酷で、すべてを踏みつぶすシオニスト・ジャガーノート（インドのクリシュナ巨大神像）が、あなたの近くの都市や州や町にやってくる前に。

## すべてのアメリカ人キリスト教徒への公開書状

親愛なるアメリカのキリスト教徒の方々へ、

本当に、イエスだったらどうしただろうか？

イエスだったとしたら、現在、ガザに住むパレスチナの人々の恐ろしく追い込まれた現状に、どう反応しただろうか？

ハマスのニセ旗（false flag）の「急襲攻撃」は文字通り、イスラエル防衛軍（IDF）とモサドによるヤラセだったことは、忘れることにしよう。また、ネタニアフ陰謀集団が、この9・11式のテロ作戦を実行し、IDFによって虐殺されなかったすべてのガザ人を強制して、彼らの残ったイスラエルの土地から、追い出そうとしたことも忘れるとしよう。

そこで仮にあなたが、石のように冷酷な、キリスト教徒のシオニストで、イスラエル・アパルトヘイト国家は、悪いことをしない——絶対にしない——と信じているとしよう。——たとえ我々が現在、罪のない女性や子どもや年寄りの、あからさまな虐殺が、ガザ領土全体において、残虐で無慈悲な IDF によって、行なわれるのを見ていたとしても！

あなた方はそれでも平気でいられるか、いられないか?!

シオニストのユダヤ人が、これで数十年にわたって、パレスチナの土地を理屈をつけて盗んでいたことは、忘れるとしよう。ブルドーザーで彼らの家を壊し、オリーブの森を潰すというのが、彼らの、新しい非合法的な居住地を盗むための、2つの犯罪的な方法である。もちろん、その暴力的な盗みは、シオニストの土地強奪者が、パレスチナの土地所有者を単に、虚偽の言いわけや、作り事の挑発によって、殺した後で行われるわけではないが…。

キーポイント：親愛なるアメリカのキリスト教徒たちよ。「汝、殺すなかれ」という戒律はもう、あなた方には何の意味もないのか？ そんなことはないと言うなら、**Thou Shalt NOT Kill** を読んでいただきたい：<https://stateofthenation.co/?p=193185> そして「汝、盗むなかれ」や「汝、むやみに欲しがる (covet) なかれ」についてはどう考えるか？

多くの残忍で血なまぐさい話で読者を悩ますのは止めるが、パレスチナ人が何年にもわたって、世界で最大の、公然の、そして完全に非人間的な、牢獄で生きてきたことを理解するのは非常に簡単なことだ。そして彼らの獄卒であるイスラエル人は、日を追うごとに、ますます無慈悲でサディスティックに、残忍で冷血な者になっていった。

しかしあなた方は、いまだに、パレスチナ人の確実に身の毛のよだつ窮状を、平気で受け入れている…あたかも彼らはそれでいいのだ、しかし自分たちであれば我慢できないだろう、といわんばかりに。

そして、あなた方は、パレスチナの同胞に対するイエスの反応も、そんなものだろうと本当に思っているのか ?!?!?

ところで、ついでながら、この同じ足を踏み下ろす土地こそ、イエス・キリスト自身が、生まれ、生き、死んでいった土地なのだ。

我々の知る限り、ガザにおいて現在、無慈悲に殺されて死んでいきつつある人々の多くは、血によってイエスとつながっているかもしれない。だから我々は、イエスやマリアやヨゼフの現実の裏庭の話をしているのだ。しかし、あなた方のすべては、この現在行われているジェノサイドが、白昼堂々と犯されていることに、完全に無関心ではないか?!

正直なところ、もし「反キリスト」と言われるものがあるとすれば、この者は今、2023年のアメリカ全土で、極端に盲目で無知なキリスト教シオニストを**通じて**、活発に活動している。

ところが、あなた方アメリカのキリスト教徒は、完全にアンチ・キリストとして、平気で活動しているのだ。……そして自己欺瞞的に、自分自身をキリスト教徒と呼んでいるのではないのか?!?!?!

敬意をもって申し上げる。

世界平和のための修正歴史家より、愛をこめて

「我々はすべて、植民地ファシズムに直面しているパレスチナ人だ」

<https://stateofthenation.co/?p=193192>

#### 【訳者 Greatchain 注】

SOTN によって書かれたもので、これほど血を絞るような調子のものを、私は初めて読んだと思う。そしてこれは、いつになく短い。

これはアメリカ人のキリスト教徒に向って言われている。我々日本人にキリスト教徒は少ないが、これはよく理解できると思う。**神の苦しみ、神の痛み**といわれるものを通じてでなければ、我々はもはや、この世界と時代を乗り越えることはできない。我々は宗教的感性を抜きにして、理論や理屈でこの世界に対処することはできなくなった。

SOTN という時評家は、恐ろしく博識で理論的であるが、そのすべてが、この宗教性に裏打ちされている。それは嘆きによる怒号とも言うべきものである。彼に最もよく似た時評家としては、私の知る限り Alex Jones がいる。ジョーンズは文字通り世界を動かしている。彼らの怒りは、**この世界に宗教的革命（人間の根の革命）が起こらなくては済まない**ことを意味している。そして世界の政治的指導者としては、今のところプーチン大統領しかいない。熱烈なキリスト教徒である預言者エドガー・ケイシーの見通していたもの——「ロシアから見えてくる光」——が、いよいよ、それしかありえないものになってきた。